



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 旗川 L=2,200m てらおかちょう 足利市寺岡町地先～ なみきちょう 佐野市並木町地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

I 事業の概要

【現況】

目標事業期間 (変更前)	令和 3 年度～令和10年度 (令和 3 年度～令和10年度)											
事業経過	令和 3 年度 事業化 令和 3 年度 用地取得着手 令和 3 年度 工事着手											
全体事業費 [うち用地補償費]	19.0 (9.8) 億円 [4.0 (3.3) 億円] ※ () は前回計画時											
事業延長 [うち整備済延長]	L = 2,200m [L = 1,090m]											
進捗率	基準年次：【令和 7 年度末時点】 <table><tr><td></td><td>費用</td><td>進捗率</td></tr><tr><td>既投資事業費</td><td>7.5億円</td><td>39.5%</td></tr><tr><td>[うち用地補償費</td><td>1.4億円</td><td>35.0%]</td></tr></table>				費用	進捗率	既投資事業費	7.5億円	39.5%	[うち用地補償費	1.4億円	35.0%]
	費用	進捗率										
既投資事業費	7.5億円	39.5%										
[うち用地補償費	1.4億円	35.0%]										

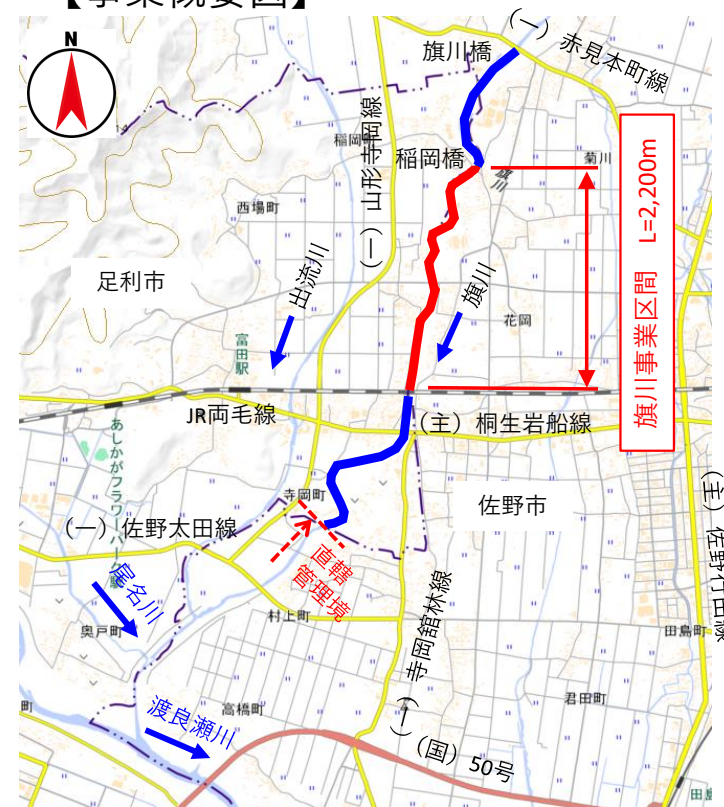
【目的】

一級河川旗川は、佐野市作原町に源を発し、佐野市街地の西部を流下して、一級河川渡良瀬川に合流する流域面積 $A=151.6\text{km}^2$ 、管理延長 $L=32.5\text{km}$ の河川である。

本区間は川幅が狭く屈曲していることから流下能力が不足しており、近年では、令和元年東日本台風において、家屋や農地等へ浸水被害が発生しているほか、沿川の一般県道山形寺岡線が通行止めになるなどの被害が生じている。

本事業は、浸水被害の軽減を図るため、河川断面の拡大及び屈曲部の解消を行うものである。

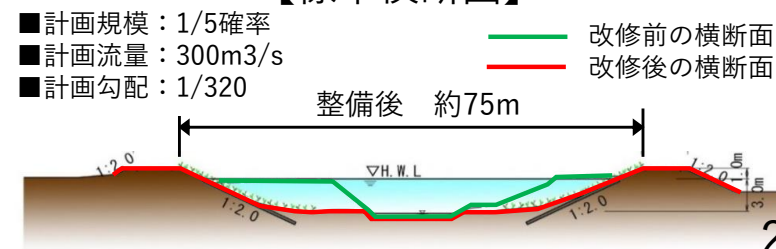
【事業概要図】



出水状況 (令和元年東日本台風)



【標準横断図】

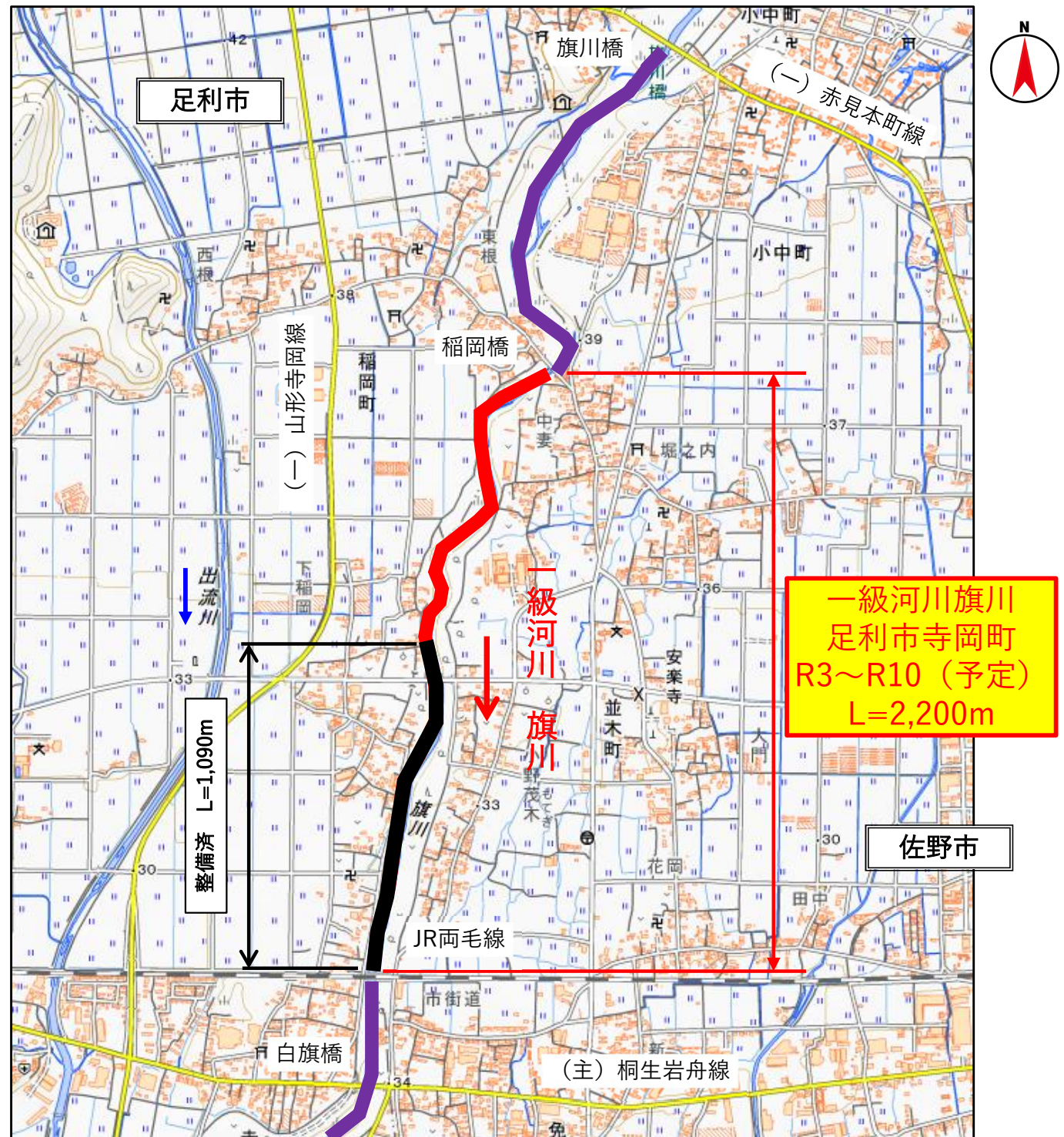


I 事業の概要

【箇所概要】



凡 例	
事業箇所	—
整備済箇所	—
他事業（交付金事業）	—



II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・ 事業期間の見直し
令和10年度 ⇒ 令和10年度
- ・ 総事業費の見直し
9.8億円 ⇒ 19.0億円

【全体事業費の見直し】

前回計画
(R3年度)

今回計画

	事業費	9.8億円 ⇒ 19.0億円 (+ 9.2億円)
内	工事費	6.5億円 ⇒ 15.0億円 (+ 8.5億円)
訳	用地補償費	3.3億円 ⇒ 4.0億円 (+ 0.7億円)

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B / C	総便益 (B)	総費用 (C)
(1) 事業全体	50.8	840.8億円	16.5億円
(2) 残事業	1.4	13.5億円	9.7億円

2 事業の整備効果等

- ・ 計画規模 1 / 5 の降雨で想定される宅地、道路や農地の浸水被害が解消される。
- ・ 河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際部に植生が繁茂できるように配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境を保全する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和7年度末時点

1 事業の進捗状況

全体事業進捗率	40%
用地	35%
工事	44%

2 今後の事業進捗の見込み

- ・用地取得、工事を推進し、令和10年度を目標に事業完了を図る。

寺並橋上下流（河道掘削）

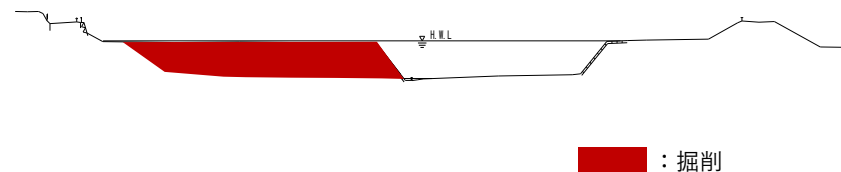


整備前



整備後

横断図



【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- ・現況河道を活かした計画とすることや、既設の護岸を利用することで、事業コストの縮減を図る。
- ・河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- ・他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- ・代替案として遊水地や捷水路を整備することが考えられるが、工事に要するコスト等を考慮すると本計画が最適である。なお、河川整備に必要な事業用地は約35%取得済みである。

【事業の対応方針（案）】

- ・本計画で事業を継続する。